

# ★授業のヒント

前回は、スポーツについて話したり聞いたり出来るようになるための授業について取り上げました。今回は、日本人が日常生活でよく使う表現やあいさつの練習を紹介します。

## テーマ 交際 ①あいさつ

目的・教えること
あいさつや簡単な応答ができるようになる。
学習者のタイプ
初級
クラスのタイプ
6人以上
準備するもの
文字カード、絵カード、など

ここでは、次のような表現の練習をします。

### 1. 導入

教師は、次のAレベル/Bレベルのリストから学生のレベルに合った文を選び、絵を使ったり、それぞれの表現が使われる状況を作ったりして、意味を教えます。この時、Aレベルのj、Bレベルのf、gなど、とくに説明が必要なものに注意しましょう。Aレベルのjの「おでかけですか。」には、行き先を詳しく知りたいとい

う意図はなく、日本ではあいさつとして理解され、「ちょっとそこまで。」と、簡単に答えればいいものです。また、Bレベルのfの「悪いですね」には、相手の親切に対して感謝している（相手に対して悪いと思っている）意味があります。Bレベルのgの「いいんです。」は「大丈夫です。」の意味で使っています。



### 2. 練習

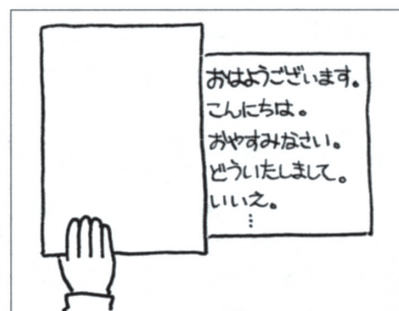
#### ①言う練習

学生に右側の答えの部分だけを見せます（一人ずつに紙を配っても、大きく書いたものをクラス全体に見せてもいいです）。初めに教師が左側の部分を上から順に読み、学生は右側の答えの部分を読みます。次に、教師は順番を変えて読みます。学生は教師の文に合った答えを考えて言います。

#### Aレベル（初級前半）

- |                   |                               |
|-------------------|-------------------------------|
| a. おはようございます。     | —おはようございます。                   |
| b. こんにちは。         | —こんにちは。                       |
| c. おやすみなさい。       | —おやすみなさい。                     |
| d. ありがとう。         | —どういたしまして。                    |
| e. すみません。         | —いいえ。                         |
| f. いただきます。        | —いつてらっしゃい。                    |
| g. ただいま。          | —おかえりなさい。                     |
| h. おめでとうございます。    | —ありがとうございます。                  |
| i. 今、ちょっと時間ありますか。 | —はい、荷でしょう。                    |
| j. おでかけですか。       | —ええ、ちょっとそこまで。                 |
| k. お手伝いしましょうか。    | —ええ、おねがいします。<br>いいえ、だいじょうぶです。 |
| l. ここにすわってもいいですか。 | —ええ、どうぞ。<br>あの、ここはちょっと。       |

#### (Aレベルの場合)



#### ②ゲーム1（6～12人のクラス用）

練習させたい文をカードに書き、クラスの半分の人に左側の文、残りの半分の人に右側の文をわたします。学生は、立って教室の中を歩きながら、ペアになる文を持っている人と探します。このとき、お互いに



Bレベル (初級後半)

- a. なくしてしまったかさがでてきたんです。
- b. かぎをなくしてしまって家に入れないんです。
- c. 欲しかったCDがもう売り切れてしまっていたんです。
- d. 今日は試験が4つもあったんです。
- e. 今、公園の花がきれいですよ。  
今日は天気もいいし、散歩に行きませんか。
- f. (お土産を渡しながら)  
これ、北海道のおみやげです。どうぞ。
- g. (借りた本をよごしてしまって)  
この本、よごしてしまいました。本当にすみません。
- h. (間違い電話がかかってきて)  
いいえ、ちがいます。

- よかったですね。
- それは困りましたね。
- それは残念でしたね。
- それはたいへんでしたね。
- いいですね。そうしましょう。
- 悪いですね。どうもありがとうございます。
- いいんです。気にしないでください。
- あ、どうも失礼しました。

カードを見せ合わずに、声を出して文を言い、相手を探すように指示します。相手が見つかった人は、動作をつけて言う練習をします。

(カード例)

ここにすわってもいいですか。	ええ、どうぞ。
なくしまったかさがでてきたんです。	よかったですね。

③ゲーム2\* (何人のクラスでも)

学生を2、3人のグループにします。a~lの文を書いたカードを各グループに全部わたして、学生が協力してペアを完成するようにします。ペアが完成したら、声を出して動作をつけてグループの中で練習するように指示します。

- ▷②③では、Aレベルのk、Aレベルのlのように一つの文に答えが二つある場合は、左側の同じ文のカードを2枚作っておきます。
- ▷ここで取り上げた文は、声を出して練習することが大切です。言い方(声の調子、イントネーション)

や表情に気をつけるようにしましょう。

▷Bレベルの学生には、右側の文を聞いて左側の文を考えさせる練習もできます。



参考文献

- 『初級日本語ドリルとしてのゲーム教材50』 栗山昌子・市丸恭子共著 (アルク)
- 『初級レベル語学教育用 新絵教材』 海外技術者研修協会編 (スリーエーネットワーク)
- 『おもしろいあいさつカード』 白鳥幸子著、国際日本語研究所編 (アプリコット)

今回は「あいさつ」をテーマにして授業の方法を考えました。  
みなさん、あいさつのことは教室の外でも使ってみてくださいね。  
それでは、また。  
このコーナーの担当: 木山登茂子、久保田美子 (日本語国際センター専任講師)

